

令和の本殿大改修  
御屋根葺替竣功

# 西宮 えびす

NISHINOMIYA-EBISU

令和七年  
新春号



# 令和七年 新春

西宮神社宮司 吉井良昭

**新** 春を迎え、謹みて皇室の弥栄を壽ぎ奉りますとともに、氏子崇敬者また各講社員の皆様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

西宮市に鎮座する当社にとりまして、令和七年は大きな節目の年となります。

先ず、令和の御代替わりを記念し継続して境内整備等の諸事業を実施してきましたところ、その締めくくりとなる本拝殿の御屋根銅板葺替事業が竣功し、去る十一月二十八日に本殿への遷座祭を滞りなく斎行し、大神様を本つ御座にお還りいただきました。大勢の方々より心のこもったご奉賛を賜り、ここに厚く御礼を申し上げます。これら六年に亘る事業完了の奉祝祭を来たる四月一日に執り行います。

次に、西宮市は本年市制施行百周年を迎えます。大正十四年の四月一日に県下五番目の市として、当社の大前に於いて賑々しく市制施行奉告祭を執行し、国県市及び氏子代表の参列のもと、えびす大神さまに市の前途の加護と益々の発展の祈りが捧げられ、ここに西宮市の第一歩が踏み出されました。爾来、人口も市域も大きな飛躍を遂げたことは、申すまでもなくえびす大神さまの福の御加護の賜物といえますでしょう。四月一日には前記の完了奉祝祭と併せ西宮市市制百周年奉祝祭をご奉賛の皆様ご参列のもと盛大に執り行うよう準備を進めております。

三つめは、突然として勃発した阪神・淡路大震災より三十年の歳月を迎えるということです。平成七年一月十七日早暁、それは一瞬にして長きにわたり蓄積されてきたあらゆるものが失われた刻でした。当社の絵馬殿も倒壊し、掲げられていた数十枚の貴重な絵馬もほとんどが粉々に割れてしまいました。

その中から何とか形を保っている宝暦元年（一七五一）に尼崎藩主から武運長久の祈りを込めて奉納された「神馬舎人添之絵」絵馬を元興寺文化財研究所に復元を依頼し、去る十一月に震災三十年を前に修復が完了しました。震災の記憶を継承するという観点からも、広く御覧いただきたく願っております。

当社の本殿は昭和二十年八月、先の大戦時の空襲により烏有に帰し、昭和三十六年に現在の本殿が造営されました。戦国期以降四回の回祿に遭っていますが、その復興にあたってはそれぞれ後奈良天皇、豊臣秀頼、徳川家綱の支援に預かり、また戦後は氏子崇敬者の奉賛によって造営の力を得て甦ってきました。源氏物語に於いて須磨・明石に隠棲した光源氏は再び都で榮華を手にしますが、この隠棲時代を紫式部は蛭子神に暗示しています。光源氏の復活は、大海原に放たれた蛭子が艱難辛苦を乗り越えて、やがて神としてよみがえる、と期待したことに重ね合わせられているように思われます。

日本紀竟宴和歌で大江朝綱により詠まれた「哀れなる神」は、源氏物語によって「よみがえりの神」となり、更に源平盛衰記で「蛭子とは夷三郎と顕れ給て、西宮におわします」とえびす神と結びつきやがて「福の神」として信仰されていきます。

終戦八十年を迎えることも含め大きな節目の年にあたり、よみがえりの神、福の神である蛭子神（えびすさま）の御神徳は一層広く厚く発揚されることでしょう。

新たな装いとなりましたご本殿にご参拝をいただき、一段と御神威を増されたえびす大神さまの御加護をお授かりになられ、令和七年が良き年となりますよう祈念致します。

# 「しんめ神馬舎人添とねりそえず図」の修復



修復が完了した神馬舎人添図

平成七年一月十七日淡路島を震源とするマグニチュード七・三の阪神・淡路大震災が発生し、多くの家屋が倒壊、混乱を極めました。西宮神社も本殿、表大門が歪み、また社務所や境内石造物のほぼ全てが倒壊するなど大きな被害を受けました。

本殿西広場に建っていた絵馬殿も倒壊し、掲げられていた多くの絵馬もほとんどが全損、また損傷しました。

令和七年一月十七日であの震災より三十年の節目を迎えます。震災を後世に語り伝え、風化させないようにえびす信仰資料展示室にて阪神・淡路大震災三十年展「震災と西宮神社」展を開催、また損傷した絵馬の中より、「神馬舎人添図」の絵馬を修復致しました。

これは宝暦元年（一七五二）尼崎藩主松平忠名公ただなみにより武運長久を願って奉納されました。当社累代宮司が書き残している「御社用日記」にその経緯が記されており、お殿様がわざわざ絵馬を奉納されるということ、飾るに良きところを選び決め、当日には関係する庄屋たちが奉納に立ち会い祝った記録が残っています。今回、その絵馬を元興寺文化財研究所文化財調査修復研究グループに修復作業を依頼し修復致しました。修復した絵馬は、えびす信仰資料展示室にて令和六年十月二日より令和七年三月三十日まで（令和六年十二月二十六日）令和七年一月十五日は休館）開催の「震災と西宮神社」展にて展示しておりますので、ご参拝の際はぜひご覧下さい。



木枠の洗浄と修復



湿式による洗浄後剥落止め



湿式による洗浄

令和七年  
正月・十日えびす

# 大福初詣

福の神えびすさまの

ご神徳が

一番高まるのが

十日えびす。

福をもとめて

三日間で

百万人の方々が

お参りされます。

一月九日(木)  
宵えびす

一月十日(金)  
本えびす

一月十一日(土)  
残り福

正月・十日えびすは大変混雑が予想されます。

本年も「大福初詣」として令和6年12月1日～令和7年2月28日まで分散参拝を実施し、  
招福御幣・干支物・熊手など授与しておりますので、安全にお参り頂く為に協力をお願い申し上げます。

※福笹の授与は令和7年1月4日～2月末まで

1/1～1/19迄は事前に浄書した朱印帳・紙朱印を授与致します。



◎ 年末年始行事予定

十二月二十七日	十時	燗払祭
	十時半頃	逆さ門松調製
三十日	十六時	大祓式
	十八時	除夜祭
一月一日	六時	歳旦祭
	二時	奉射事始祭
三日	九時半	元始祭
五日	十二時	境内末社百太夫神社祭
八日	九時半頃	招福大まぐろ奉納式
	十三時	献華祭
九日	十六時	十日戎宵宮祭(宵えびす)
十日	四時	十日戎大祭(本えびす)
	六時	開門神事福男選び
	十時	十日戎(残り福)
十五日	十時	十日戎報喜祭



◎ 新年のご祈祷のご案内

十日えびすは、えびすさまのご神徳が最も高まる日と言われています。正月と十日えびすの各三日間は、特別に本殿での昇殿祈祷をご奉仕致します。年の始めにえびすさまの福を頂き、福々しい一年をお過ごし下さい。

◆ 受付時間

- 一日 午前零時～午後六時
- 二、三日 午前九時～午後六時
- 四～八日 午前九時～午後四時半
- ※祈祷殿にて受付・奉仕致します。
- 九、十一日 午前八時～午後十時五十分
- 十日 午前六時～午後十時五十分
- 十二日以降 午前九時～午後四時半
- ※祈祷殿にて受付・奉仕致します。

ご祈祷料

個人五千円、法人二万円、



令和七年 正月・十日えびす

特設サイトのご案内

正月・十日えびすの神事・行事や交通規制情報など詳しい内容は特設サイトをご覧ください。



またコロナ禍から始めました参道ライブ配信は引き続き実施致します。参道の様子をご覧頂き、混雑を避け分散してのお参りにご協力お願い致します。



特設サイトはこちらから▲

# 令和の御大典・西宮市制百年奉祝事業の報告・経過

平成から令和の御代替、また令和七年に西宮市制百年を迎えるにあたり、これを寿ぎ境内整備、文化事業を進めて参りました。

## 「西宮大神本紀絵巻」復元 (令和二年三月)

江戸中期頃作られた絵と詞書からなる絵巻物で、蛭子命のご出現、海上渡御等が描かれていましたが、昭和二十年の西宮大空襲にて焼失。戦前の調査書、絵葉書に残されていたものを元に時代考証を進め復元致しました。



## 表大門(赤門)の 塗替、修理工事 (令和二年八月)

一月十日の開門神事福男選びが行われることでも有名な重要文化財の表大門。丹塗りの塗替え・木部の修繕、屋根瓦の修繕工事を、行い、麗しく復元されました。



## 大練塀保存修理工事 (令和三年十二月)

日本三大練塀の大練塀。剥落した大練塀の補修版築修理を行いました。また調査結果を踏まえて、全ての塀沿いに排水路を設ける排水工事を施しました。また竣工を記念して「版築工法模型」を製作、工法の作業工程を再現しています。えびす信仰資料展示室にてご覧いただけます。



## 神池参道補修工事 (令和四年九月)

劣化による剥落が各所で発生しており、御影石を張り補修工事を行いました。それぞれの島には鯛を彫っております。





西宮御水祀の歴史と文化、そしてその祭りの様子を詳しく紹介する巻物。巻物の右側には、祭りの賑やかな様子を色鮮やかに描いた絵巻が展開されています。



灘五郷、全国の酒造会社より奉納頂いた酒樽を飾る飾樽舎を約五十年ぶりに改修致しました。愛知県の無形民俗文化財「万燈祭」のえびすさまの万燈も展示致しております。

### 駐車場公衆トイレ、 青年の家改修工事 (令和五年十二月)

約五十年ぶりに駐車場の公衆トイレと氏子青年集会所である青年の家の建て替えを行いました。



### 絵馬「神馬舎人添図」の修復 (令和六年十月)

阪神・淡路大震災で倒壊した絵馬殿にて損壊した中の一枚である「神馬舎人添図」を元興寺文化財研究所文化財調査修復グループに依頼し修復致しました。えびす信仰資料展示室にて展示致しております。



### 本殿御屋根葺替事業 (令和六年十二月)

昭和三十六年に現在の本殿が復興し、約六十年が経過し、本拝殿の御屋根の銅板の老朽化他、各所修繕が必要となっていました。本事業には、御屋根銅板の葺き替えを始め、本殿木部の洗浄、大床浜床の修繕等の修理を行うべく令和六年一月三十日に仮殿へ神さまにお遷り頂きました。その後、工事に着手、予定通り進め、十一月二十四・二十五、二十六日には「お砂持ち神事」を実施、二十八日には本殿遷座祭を執り行い、神さまにご本殿にお遷り頂き、二十九日には本殿遷座奉告祭を斎行致しました。



### 西宮市制百年奉祝行事 (令和七年四月一日〜六日)

西宮市は大正十四年四月一日に市制が敷かれ誕生しました。令和七年四月一日をもって百年の奉祝の年を迎えます。これに合わせ様々な奉祝行事を予定しております。皆さまでお祝いしましょう。



大正14年4月1日市制施行奉告祭(にのみやデジタルアーカイブ)

### 全国「西宮」調査 (令和七年三月)

西宮市制百年を迎えることを記念して全国に散見する「西宮」を種類別(地名、神社名、西宮と刻まれた石造物、旅行記等)に収集、調査し記念冊子を刊行すべく進めております。



(西百無)第0152号

# 西宮市制百年

西宮市は大正十四年(一九二五)四月一日に市制が敷かれ誕生しました。当日朝九時より西宮神社において奉告祭を斎行。その後境内にて関係者、来賓による祝賀式を行い、祝杯をあげました。当時の写真を見ますと、祭典・祝賀式共に拝殿、境内一杯に人が溢れ、盛り上がる様子が見られます。神社の周辺では男女変装隊、屋台、山車が練り出し、他の催し会場では芸妓による「市制祝賀踊り」、素人玄人諸芸大会、相撲等行われました。夜は市庁舎、各家々も満艦飾で飾られ、街の中は提灯行列、旗行列が行われ、活動写真の映写があり、当時の記録では一日中、「煮えくり返るような騒ぎ」であったようです。

令和七年四月一日に西宮市制百周年を迎えます。西宮神社ではこれを祝い、四月一日に記念の奉祝祭を斎行したのち約一週間に亘り奉祝行事を行います。ぜひご参拝頂き西宮市制百年を皆でお祝いしましょう。

## ○本殿特別参拝のご案内

生まれ変わった本殿で特別にご参拝下さい

御屋根の葺き替え、各所の修繕を終え、美しく甍った本殿。えびすさまのご神徳が高まっている今、本殿特別参拝を実施し、大いなる福をお受け頂きます。正式参拝の後、普段は立ち入ることが出来ない本殿裏にご案内し、特別にご参拝頂きます。

## ●個人でのご参拝

期間…令和七年四月～六月の各月一日・十日・二十日  
時間…十二時～十五時

- 句祭参列者 句祭終了のち本殿裏にて特別参拝
- 本えびす講員 正式参拝のち本殿裏にて特別参拝
- その他の方 正式参拝のち本殿裏にて特別参拝

初穂料…千円 ※事前のご予約は不要です。

## ●団体でのご参拝(十名以上)

期間…令和七年四月～令和八年三月末

- 団体参拝 正式参拝のち本殿裏にて特別参拝

初穂料…二万円(四十名の場合)

※事前予約制になりますので、当社文化課までお申し込み下さい。

(TEL)0798-331-0311





◎奉祝行事予定

\*予定行事は変更の場合があります

令和七年	3月23日(日)	13時30分	「百太夫神社文化芸術・西宮市制100年記念講演会」(西宮神社会館) 講師 アルピニスト 野口健氏
	29日(土)	18時	「西宮・伝統芸能の夕べ」能 梅若基徳氏 (拝殿前特設舞台)
	4月 1日(火)	10時	「本殿竣工・西宮市制100年奉祝祭」(本殿)
		14時	「えびす舞・獅子舞」人形芝居えびす座 (本殿西特設舞台) 「西宮市制百年奉祝市」(境内)
	2日(水)	10時	「能奉納奉告祭」梅若基徳氏 (本殿)
		11時	「松尾神社祭」(境内末社)
	3日(木)	10時	「献華祭」嵯峨御流西宮えびすの宮会 (本殿)
		11時	「梅宮神社祭」(境内末社)
	4日(金)	10時	「裏千家献茶式」裏千家千玄室大宗匠 (本殿)
	5日(土)	10時	「(仮)淡路人形浄瑠璃奉納奉告祭」(本殿)
13時		「(仮)阿波木偶箱廻し」(本殿西特設舞台)	
14時30分		「(仮)狂言」(本殿西特設舞台)	
終日		「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア特別イベント(仮)酒と食の宴」(境内)	
6日(日)	10時	「(仮)東西南部神楽」(本殿西特設舞台)	
	13時	「(仮)島根大元神楽奉納奉告祭」(本殿西特設舞台)	
	終日	「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア特別イベント(仮)酒と食の宴」(境内)	



# 渡御祭



かざまつり 祝詞奏上

**九** 月二十三日、本年は香櫛園地区が担当となり西宮まつり「渡御祭」を斎行致しました。

本年は仮殿にてえびすさまを御神輿にお遷し申し上げ、香櫛園小学校横から香櫛園浜まで行列を組んで

陸渡御を行い、香櫛園浜にて御旅所祭を斎行致しました。本年は御神宝の磐樟船を行列にて奉持し、海に面したお旅所にて御神前に奉り、また海上渡御では船に乗せ巡行致しました。



御神宝 磐樟船を献ず



陸渡御 神幸

## 石玉垣奉納

令和六年九月二十九日、宝塚市にお住まいの沖浩彰様、敦子様、祐里様、また十月五日には西宮市にお住まいの椎木治行様、かよ子様、美帆様より祈禱殿前に石玉垣の奉納があり、いずれも奉納奉告祭、清祓式を斎行致しました。



沖様



椎木様

## えびすさまの万燈奉納



参拝の折には、ぜひご覧下さい。

「万燈祭」は、同県刈谷市に鎮座する秋葉社の祭礼で、「天下の奇祭」と呼ばれ、江戸時代中期から二百有余年続いている刈谷を代表する夏祭りです。

ました。飾樽舎に飾っていますので、

愛知県の無形民俗文化財に指定されている「万燈祭（まんどまつり）」の万燈（まんど）が刈谷万燈保存会様より当社に奉納され

佐賀県

# 鎮西西宮社再建

平安時代に創建され、佐賀歴代藩主にも篤く崇敬されてきた佐賀県佐賀市北川副町大字光法に鎮まる鎮西西宮社。放火により本殿が焼失したのが令和二年。失意の中役員、地域の方々に何度も協議を重ねられ再建が決定し困難から立ち上がるという事で、境内に石造りの「たちあがりえびす像」を建立、再建に向けて動き出しました。

令和六年七月六日に鎮西西宮社宮司、役員が揃い本社に参られ、あらためてご分霊をお受けになられました。十月十九日にはえびすさまの御神霊を新しくなった本殿にお遷しする遷座祭を斎行、翌二十日には八百五十年の奉祝祭が厳肅に執り行われ当社より宮司が参列致しました。

平安時代に創建され、佐賀歴代藩主にも篤く崇敬されてきた佐賀県佐賀市北川副町大字光法に鎮まる鎮西西宮社。放火により本殿が焼失したのが令和二年。失意の中役員、地域の方々に何度も協議を重ねられ再建が決定し困難から立ち上がるという事で、境内に石造りの「たちあがりえびす像」を建立、再建に向けて動き出しました。



宮城県

## ふたはしら 二柱神社分霊祭

宮城県仙台市泉区名坂に鎮座する二柱神社が、この度氏子崇敬者の総意により当社よりえびすさまの御神霊を勧請しご本殿に併せ奉斎することとなり、令和六年十月十五日に仮殿にて分霊祭を斎行致しました。

当日はえびすさまの木像を奉安し遷霊、二柱神社宮司の藤岡邦彦氏に玉串をお供え頂き、御木像と分霊証を授与致しました。二柱神社にては十月十八日に御屋根を葺き替え、新しくなった本殿に遷座祭併合祀祭を斎行され無事えびすさまのご分霊は仙台の地にお鎮まりになりました。



演題

「富士山から日本を変える  
～山から学んだ環境問題～」

富士山やエベレストを通して学んだ環境問題、活動を多くの方に伝え続けていくために必要なことを実体験を通じ、また森林再生活動や教育活動についてもお話致します。

講師 **野口 健 氏**

- 日時／令和7年3月23日(日)  
午後1時30分 境内末社 百太夫神社参拝  
午後1時50分 講演会(90分)
- 場所／西宮神社会館
- 参加費／無料
- 定員／200名  
(定員に達し次第締め切りとなります)
- 申込み／電話0798-33-0321まで



写真提供：野口健事務所

アルピニスト。25歳で7大陸世界最年少登頂記録を樹立。富士山、エベレストの清掃活動を精力的に行う。

当社境内末社の百太夫神社のご神徳の宣揚を図るべく、また西宮市制百年を記念してアルピニストの野口健氏をお招きして講演会を開催致します。

百太夫神社文化芸術・  
西宮市制百年記念講演会

えびす NISHINOMIYA EBISU 令和七年 新春号

発行／西宮神社 〒902-0074 兵庫県西宮市社家町1-17 電話 0798-633-0001 FAX 0798-633-5555

編集／文化課 印刷／小西印刷所

えびす善哉

正月限定販売  
100食限定

1日～3日  
午前10時～午後3時

¥660(税込) 神社会館2階にて販売

info@jinjakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

こころの  
結婚式



ご結婚式ご相談他  
お宮参り各種宴会等のご会食も承ります

西宮神社  
公式ホームページで最新情報を  
公式インスタグラムも開設!  
ご覧下さい。



西宮神社  
公式サイト



西宮神社  
公式インスタグラム

西宮神社 公式サイト

検索

https://nishinomiya-ebisu.com

装い新たになった本殿にて四月一日に市制百年奉祝祭を斎行し、併せ境内にて様々な奉祝行事を行う予定です。是非ご参拝賜わり、皆さんと共に祝い致し度く存じます。

えびすさまが鎮まられるこの西宮市が未永く発展していくことを祈念致します。

編集室から

令和七年は阪神・淡路大震災三十二年、西宮市制百年、阪神タイガース球団創設九十年、西宮史談会(現・西宮文化協会)発足百年、昭和二十年の戦災より八十年にあたり、様々な節目の年にあたります。中でも西宮市制が敷かれた大正十四年四月一日には西宮神社で奉告祭を斎行、祝賀式を執り行った後に境内外で様々な祝いの行事をし、市民皆で喜び祝った様子を諸記録で窺い知ることが出来ます。あれから百年、当社ではこの嘉節に併せ本拝殿御屋根の葺き替えを行いました。